

櫛形町文化財調査報告 No 8

町内遺跡詳細分布調査報告書

1990

櫛形町教育委員会

序 文

櫛形町は、陝西地域の中央に位置し、櫛形山の山裾に発達した町であります。2万年以上前から人々の生活が始まり、以来長い歴史の中で常に陝西地域の中心として栄えてきました。

律令時代には『大井郷』の一部をなし、また本町「小笠原」は平安時代から鎌倉時代にかけて小笠原氏の氏祖《小笠原長清公》が居館を構えたところと云われています。町内には町の歴史を物語るよう多くの史跡や文化財が点在しています。

町の活性化や、文化的な発展を目指すうえでも、このような史跡や文化財を保護・活用していくことは現代の私たちに課せられた重要な責務といわねばなりません。

しかるに、最近の地域開発の波は、地中に埋まつた歴史の証言者である遺跡ですら、その姿を変えてしまうほど大型化し、文化財保護の本来の姿である現状保存が著しく困難になってきました。櫛形町教育委員会では、そのような現状を踏まえさらに一層文化財の保存・活用に資するとともに、一方時代に求められた開発と、文化財保護との調整に役立てるためにも、今回国・県の補助をいただき、町内埋蔵文化財詳細分布調査を実施いたしました。この調査の成果が上記の目的達成のため、意義ある資料として活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にご指導・ご協力いただいた、多くの皆様にふかく感謝の意を表するとともに、今後ともさらにご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成2年3月31日

櫛形町教育委員会

教育長 河野 豊

例　　言

1. 本書は、山梨県中巨摩郡櫛形町の埋蔵文化財詳細分布調査報告書である。
2. 分布調査は、平成1年度文化財保存事業として、櫛形町教育委員会が国・県の補助金を受けておこなった。
3. 本書の編集は清水博（櫛形町教育委員会）が行い、執筆分担は下記の通りである。
第1・2・4・6章清水博、第3章河西学、第5章畠大介、遺跡地名表若林初美
4. 写真撮影は、遺跡については各担当調査員が行い、表探遺物については清水博が行った。
5. 委嘱調査員は、下記の通りである。（敬称略・順不同）
浅利司・雨宮正樹・出月洋文・伊藤公明・伊藤正幸・猪股善彦・内田裕一・大森隆志・折井教・數野雅彦・齊藤修二・桜井真貴・佐野勝広・清水能行・信藤祐仁・瀬田正明・高野文明・中山誠二・長沢宏昌・畠大介・林部光・保坂裕史・保坂康夫・堀ノ内泉・丸山哲也・八巻与志夫・山下孝司・山路恭之介（以上、山梨県考古学協会）
河西学・櫛原功一・外山秀一・中山千恵・平野修・宮沢公雄（以上、山梨文化財研究所）
6. 整理作業は、清水・若林が行ない、土器の分類は櫛原、石器は保坂（康）が行った。
7. 本書の作成にあたって、次の方々にご指導、ご協力を賜った。記して感謝する次第である。
(敬称略・順不同)
山梨県教育委員会文化課・山梨県埋蔵文化財センター・甲西町教育委員会・帝京大学山梨文化財研究所
8. 今回の分布調査で得られた記録・遺物は櫛形町教育委員会が保管している。

目　　次

序　文	
例　言	
目　次	
第1章　調査に至る経緯と経過	1
第2章　歴史的環境	1
第3章　櫛形町の地形・地質	2
第4章　遺跡の分布と概要	3
第5章　町内の山城	3
第6章　まとめ	14
引用・参考文献	

第1章 調査に至る経緯と経過

櫛形町では、現在50ヶ所の遺跡が確認されている。これは昭和37・46年度の2回にわたって行われた分布調査の結果に、その後確認された遺跡が追加されたものである。

しかし、近年経済活動の進展に伴い開発行為等の件数も全国的に急増している。櫛形町を含む岐阜地域でも甲西バイパス（中部横断高速道）の整備が着手され、その他にも大規模な地域開発、企業進出が計画されている。これらの開発事業にたいして、文化財保護行政の立場から適切な処置を講ずるために現在の埋蔵文化財の把握状況では不十分であった。

そのため櫛形町教育委員会では、上記の状況に対応するため、国・県の補助を受けて町内遺跡詳細分布調査を実施し、埋蔵文化財の基本資料を作成することとした。

調査は、櫛形町教育委員会が主体となり山梨県考古学協会会員等に委嘱しておこなった。現地踏査は遺物が採集しやすい11月上旬から1月下旬にかけて実施した。町内を31区画に分け、各区画を1名の調査員が分担し、別個に山城の調査班を組織した。現地踏査終了後、2月から3月末日まで報告書の刊行、遺跡台帳の整備等の整理・記録作業を行った。

第2章 歴史的環境

釜無川の右岸、櫛形山の山麓に発達した櫛形町は、西半部を櫛形山やその東麓に形成された市之瀬丘陵が占め、東半部は盆地床縁辺の扇状地となっている。市之瀬丘陵上には旧石器時代からの遺跡が確認され、绳文時代・弥生時代以降集落が営まれてきた地域である。また丘陵の縁辺部には、物見塚古墳をはじめとして前期古墳が連続して築造され、その時代において地域の中心であったことを示している。盆地床の扇状地上では、古墳時代以降集落が営まれ水利の不便な扇状地上にあっても、該期以降開発が進められてきた。丘陵標には、現在は数基を残すのみであるが後期群集墳が築造され、積石塚古墳も存在したと伝えられている。

律令体制下では、町内南半部は「和名類聚抄」にみられる「大井郷」の一部であったが、北半部も平安時代から鎌倉時代にかけて「八田御牧」の一部であったと考えられている。律令体制の崩壊後、甲斐國に於ては甲斐源氏が強大な勢力を握り、本町周辺も加賀美〔若草町〕、南湖〔奈古〕・秋山〔甲西町〕等の地名が示すようにその一族が居館を定めた地である。本町小笠原の小笠原小学校付近は、小笠原氏館があったとも伝えられ「御所庭」という字名が遺されている。また上野の丘陵上には、小笠原氏の一族上野氏や武田大井氏が拠った棒城が現在僅かにその痕跡をとどめ、町内にはその時代を物語る石造物が各所にのこされている。

江戸時代の状況については「甲斐国志」や「村明細帳」等にその姿をうかがうことができるが、現在の各地区の集落の基礎はこの時期に形成されたものであろう。

近代にはいり、明治4年（1871）甲斐國が山梨縣と改称されて以降幾多の曲折を経たが、最終的には小笠原町・柳村・野之瀬村が合併しきらに豊村を併せて、現在の櫛形町に至っている。

第3章 榆形町の地形・地質

榆形町は、フォッサマグナ西縁にあり、榆形山の西側には糸魚川-静岡構造線が南北に走る。この付近には糸魚川-静岡構造線、榆形山断層、および市之瀬台地の東縁部と山麓側とに南北にのびる市之瀬断層群などの活断層が存在する。地形は、大きく山地・台地・低地に分類される。榆形山の属する巨摩山地には新第三紀の巨摩層群が堆積していることからグリーンタフ地域とも呼ばれる。巨摩層群は、緑色に変質した火山岩類からなる榆形山層と堆積岩類からなる桃の木層とから構成されている。

市之瀬台地は更新世の扇状地性の段丘から構成されている。市之瀬台地の地形面は、上位より高位面群・Ⅰa・Ⅰb・Ⅱ・Ⅲ面に分類される。¹⁾高位面群は市之瀬台地の西側を取り囲むように点在している。さらに西側の榆形山の山腹には高尾・立沼・伊奈ヶ湖などの断層地形と考えられている平担面が南北方向に配列している。六科山・御殿山はⅠa面に、上野山はⅠb面に分類されているが、両者とも風化の進んだ上野山礫層から構成され風成の御岳第一軽石（Pm-I：約7~9万年前）におおわれる。上野山礫層下部には指交関係で蘿崎岩屑堆積物が分布する。Ⅱ面には平岡・伝嗣院・曲輪田がある。Ⅱ面を構成する深沢川礫層中には砂礫混じりのPm-Iが段丘表面より20~30m下に挟在される。Ⅱ面にのる褐色土壌の最上部付近に姶良Tn火山灰（AT：2.1~2.2万年前）が土壤化して存在するが、その他の指標テフラは見られない。Ⅱ面には中野・上市之瀬・下市之瀬がある。Ⅲ面は市之瀬川礫層からなり、現在の市之瀬川・堰野川沿いに分布し、中野付近の山麓ではPm-IののるⅠb面を薄くおおい、台地東縁ではⅠb面を深く開析している。Ⅲ面は風化火山灰層をのせず、現河川によって開析されている。

河川が山地および台地から平担地にでた部分に、北から大和川・高室川・塩沢川・深沢川・市之瀬川・堰野川などによる小規模な扇状地が形成されている。大和川・滝沢川以西の低地は、これら的小扇状地群から構成される。また滝沢川・市之瀬川などこの地域の河川は、河床が低地より高い天井川を形成している。天井川は堤防による河道の固定化で堆積物が蓄積されてきた人口地形である。桃園から吉田にかけての榆形町北部地域は、御勅使川扇状地扇央部に位置する。御勅使川扇状地は有野付近を扇頂とし、西縁を大和川に南西縁を滝沢川によって限られ、釜無川右岸に広く分布している。扇状地は礫・砂を主とする粗粒堆積物が多く排水は良好であるが、保水性に乏しい。



第1図 市之瀬台地の地形分類図(国土地理院, 1981)

第4章 遺跡の分布と概要

今回の遺跡詳細分布調査に於てあきらかにされた遺跡は総数239ヶ所を数えた。ここではその分布の概要を、地形・地質的な環境から概観したい。

前章で述べたように、櫛形町内は地形的に大きく山地・台地・低地（扇状地）に分類された。遺跡は主要に台地・扇状地に認められ、地形によって存在する遺跡の時期が異なる傾向をしめしている。また櫛形山腹の断層によって生じた平坦面にも縄文時代を中心とする遺跡が僅かに認められる。

市之瀬台地は、町中央に扇形に広がる更新世の扇状地性の段丘で、低地とは100～120mの比高差を持っている。台地上にはPm-1、始良Tn火山灰等が堆積し、またいくつかの小河川によって開析されている。

今回の調査で発見された遺物の中で最古のものは旧石器時代のナイフ型石器で台地上、平岡地内の長田八遺跡から採集されている。この台地上には縄文時代の遺跡が多数存在し、特に台地中央の平岡地内では全面的に遺物の散布が認められ、良好な集落遺跡となる可能性が強い。上野・中野・曲輪田などにもこの時期の遺物が濃厚に散布する地点が散在する。また扇状地から採集されたものも含めて、今回の調査によって得られた縄文時代の遺物はそのほとんどが中期後半に属するものであった。さらに台地中央の、漆川・市之瀬川によって開析された谷を臨む縁辺部からは弥生時代の遺物が採集され、台地先端部には前期古墳が点在している。

町東半部を占める低地は、台地から流れでた小河川によって形成された扇状地となり、特に町北部では御使川扇状地となる。

この扇状地上でも、台地裾の下市之瀬・上宮地・曲輪田などでは縄文時代の遺物が採集され木遺跡と同様低地における縄文遺跡となる可能性が強い。しかし、扇状地に於ける遺物的一般的なあり方は、やはり古墳時代以降遺跡が進出することを示している。古墳時代の遺物は、上宮地・山寺・吉田などに散在する程度であるが、平安時代になると町内各地に遺跡がいとなれる。この扇状地は、從来遺跡の存在が極端にすくなかった地域であるが、今回の調査は遺物の散布が薄いとはいえ、再考を促すものとなった。

町内全域にわたって、近世の遺物は現在の集落と重なる分布状態を示しており、現在の集落の基礎がこの時期に形成されたものといえよう。

遺跡地名表

番号	遺跡名	種別	所 在 地	時 代 (時 期)	備 考
1	今井原遺跡	散布地	上今井字今井原491-1他	縄文	
2	北原A遺跡	散布地	吉田字北原1243他	縄文・近世	
3	北原B遺跡	散布地	吉田字北原1065他	縄文・平安	
4	大草A遺跡	散布地	吉田字大草1307他	縄文・中世	
5	大草B遺跡	散布地	吉田字大草1356-1他	縄文・奈良・平安	
6	吉田中畑C遺跡	散布地	吉田字中畑264他	弥生(後)・古墳(前) ・奈良・平安・中世	
7	桑原A遺跡	散布地	沢登字桑原245-1他	縄文	
8	桑原B遺跡	散布地	沢登字桑原235-2他	古墳・近世	
9	永面A遺跡	散布地	沢登字永面122他	奈良・平安・中世	
10	永面B遺跡	散布地	沢登字永面107他	中世	
11	赤面A遺跡	散布地	沢登字赤面731-1他	中世・近世	
12	赤面B遺跡	散布地	沢登字赤面722他	中世・近世	
13	赤面C遺跡	散布地	沢登字赤面624-1他	中世・近世	
14	七ツ打A遺跡	散布地	沢登字七ツ打394-3他	中世	
15	七ツ打B遺跡	散布地	沢登字七ツ打385-1他	中世・近世	
16	七ツ打C遺跡	散布地	沢登字七ツ打378-1他	中世	1989試掘調査
17	七ツ打D遺跡	散布地	沢登字七ツ打326-1他	中世・近世	
18	西原A遺跡	散布地	上今井字西原877-1他	中世・近世	
19	西原B遺跡	散布地	上今井字西原846他	中世・近世	
20	豊小学校遺跡	散布地	上今井字西原787-1他	弥生(後)・古墳(前) 旧番号9-36	
21	十五所古屋敷A遺跡	散布地	十五所字村東172他	弥生(後)・古墳(前)	1989一部試験
22	十五所古屋敷B遺跡	散布地	十五所字古屋敷1099他	中世・近世	
23	村東A遺跡	散布地	十五所字村東742他	中世・近世	
24	吉田中畑A遺跡	散布地	吉田字中畑345他	奈良・平安・中世	
25	吉田中畑B遺跡	散布地	吉田字中畑316-2他	奈良・平安・中世	
26	吉田中畑D遺跡	散布地	吉田字中畑473他	奈良・平安・中世	
27	吉田中畑E遺跡	散布地	吉田字中畑495他	中世	
28	前原A遺跡	散布地	吉田字前原525他	中世	
29	前原B遺跡	散布地	吉田字前原539他	平安・中世	
30	前原C遺跡	散布地	吉田字前原563他	中世	
31	前原D遺跡	散布地	吉田字前原557他	中世	
32	前原E遺跡	散布地	吉田字前原631-1他	中世	
33	前原F遺跡	散布地	吉田字前原640他	奈良・平安	

番号	遺跡名	種別	所 在 地	時 代 (時 期)	備 考
34	前原G遺跡	散布地	古田字前原596他	奈良~平安・中世	
35	前原H遺跡	散布地	古田字前原648他	中世	
36	村東B遺跡	散布地	十五所字村東206-1他	奈良~平安・中世	
37	村東C遺跡	散布地	十五所字村東719他	奈良~平安・中世	
38	村東D遺跡	散布地	十五所字村東701他	中世・近世	
39	村前東A遺跡	散布地	十五所字村前東297他	奈良~平安・中世	
40	村前東B遺跡	散布地	十五所字村前東289他	奈良~平安・中世	
41	村前東C遺跡	散布地	十五所字村前東330他	平安・中世	
42	鼠作A遺跡	散布地	沢登字鼠作857他	中世・近世	
43	鼠作B遺跡	散布地	沢登字鼠作1029-1他	中世	
44	雨ヶ久保遺跡	散布地	桜園字雨ヶ久保1699他	近世	
45	往還東A遺跡	散布地	小笠原字往還東1345他	弥生	
46	往還東B遺跡	散布地	小笠原字往還東1432他	近世	
47	往還東C遺跡	散布地	小笠原字往還東1373-2他	中世	
48	立畠遺跡	散布地	小笠原字立畠1806-2他	中世	
49	批把遺跡	散布地	小笠原字批把1871-1他	平安・中世・近世	
50	川向遺跡	散布地	小笠原字川向1629他	平安・中世・近世	
51	宮原遺跡	散布地	桃園字宮原567他	弥生・平安	
52	東畑A遺跡	散布地	桃園字東畑999他	中世	
53	東畑B遺跡	散布地	桃園字東畑1003-1他	平安	
54	東畑C遺跡	散布地	桃園字東畑1080-1他	平安・中世・近世	
55	東畑D遺跡	散布地	桃園字東畑987-1他	中世・近世	
56	東畑E遺跡	散布地	桃園字東畑960他	中世・近世	
57	東畑F遺跡	散布地	桃園字東畑940-1他	近世	
58	下新井A遺跡	散布地	桃園字下新井1124-2他	中世・近世	
59	下新井B遺跡	散布地	桃園字下新井1130他	平安	
60	下新井C遺跡	散布地	桃園字下新井1070他	平安・中世・近世	
61	下新井D遺跡	散布地	桃園字下新井1066他	中世・近世	
62	下新井E遺跡	散布地	桃園字下新井1092-1他	中世	
63	下新井F遺跡	散布地	桃園字下新井1147他	平安・中世	
64	下新井G遺跡	散布地	桃園字下新井1375他	中世	
65	八反畑遺跡	散布地	桃園字八反畑450他	平安・中世	
66	八田畑遺跡	散布地	小笠原字八田畑1319-1他	近世	
67	藤原遺跡	散布地	小笠原字藤原1087他	近世	
68	西原遺跡	散布地	小笠原字西原1565-2他	近世	

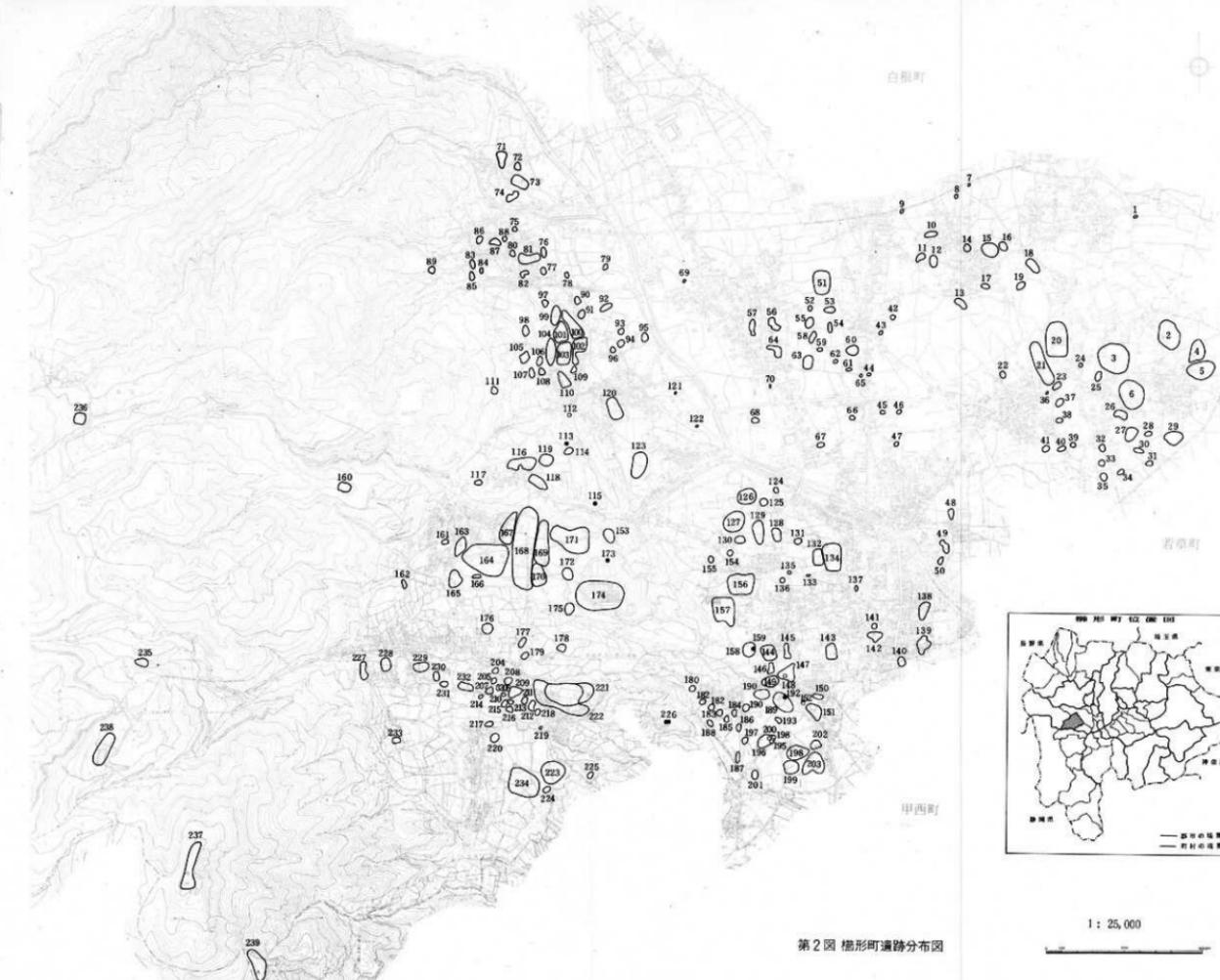
番号	遺跡名	種別	所 在 地	時 代 (時 期)	備 考
69	高尾畠遺跡	散布地	桃園字高尾畠133他	平安・中世	
70	寺畠遺跡	散布地	桃園字寺畠134-1他	中世	
71	北原A遺跡	散布地	曲輪田字北原1403他	绳文・平安・中世	
72	北原B遺跡	散布地	曲輪田字北原1248他	绳文・中世	
73	曲輪田遺跡	散布地	曲輪田字北原1258-1他	绳文(中)・平安・中世	旧番号9-8
74	北原C遺跡	散布地	曲輪田字北原1278他	绳文	
75	井崎A遺跡	散布地	曲輪田字井崎1087他	奈良・平安	
76	井崎B遺跡	散布地	曲輪田字井崎1047-1他	平安	
77	井崎C遺跡	散布地	曲輪田字井崎1058-2他	平安・中世	
78	井崎D遺跡	散布地	曲輪田字井崎863-4他	平安・中世	
79	桃園井崎遺跡	散布地	桃園字井崎866-2他	中世	
80	西田A遺跡	散布地	曲輪田字西田2543-1他	平安・中世	
81	西田B遺跡	散布地	曲輪田字西田2532他	平安・中世	
82	西田C遺跡	散布地	曲輪田字西田2553-1他	平安・中世	
83	西田D遺跡	散布地	曲輪田字西田2680-2他	平安	
84	西田E遺跡	散布地	曲輪田字西田2636-2他	平安・中世	
85	西田F遺跡	散布地	曲輪田字西田2679他	绳文・弥生・平安・中世	
86	八増A遺跡	散布地	曲輪田字八増2824-1他	平安・中世	
87	八増B遺跡	散布地	曲輪田字八増2851他	平安・中世	
88	八増C遺跡	散布地	曲輪田字八増854他	平安・中世	
89	上の山A遺跡	散布地	曲輪田字上の山3303-20他	绳文(中)	
90	上手河原A遺跡	散布地	上宮地字上手河原3338-7他	平安	
91	上手河原B遺跡	散布地	上宮地字上手河原3339-9他	中世	
92	上手河原C遺跡	散布地	上宮地字上手河原3320-1他	平安・中世	
93	上手河原D遺跡	散布地	上宮地字上手河原3261他	中世	
94	上手河原E遺跡	散布地	上宮地字上手河原3222他	弥生・平安	
95	上手河原F遺跡	散布地	上宮地字上手河原3242他	平安	
96	神明日遺跡	散布地	上宮地字神明3218他	平安・中世	
97	菖蒲沢A遺跡	散布地	上宮地字菖蒲沢3386他	平安	
98	菖蒲沢B遺跡	散布地	上宮地字菖蒲沢3627他	弥生	
99	北峯A遺跡	散布地	上宮地字北峯3386他	绳文(中)・弥生	旧番号9-12
100	北峯B遺跡	散布地	上宮地字北峯3362他	绳文・平安・近世	
101	北峯C遺跡	散布地	上宮地字北峯3404他	绳文・弥生・平安・中世・近世	
102	神明A遺跡	散布地	上宮地字神明3165他	绳文・平安(末)・中世	旧番号9-13
103	神明C遺跡	散布地	上宮地字神明1269他	绳文・弥生・平安・中世	

番号	遺跡名	種別	所 在 地	時 代(時期)	備 考
104	丸山A遺跡	散布地	上宮地字丸山3146他	弥生・古墳・奈良・平安	
105	丸山B遺跡	散布地	上宮地字丸山2981他	繩文・弥生	
106	丸山C遺跡	散布地	上宮地字丸山3105-1他	弥生	
107	丸山D遺跡	散布地	上宮地字丸山3032他	弥生・奈良・平安	
108	丸山E遺跡	散布地	上宮地字丸山3128他	中世	
109	北新居(一) A遺跡	散布地	上宮地字北新居1319他	繩文・弥生	
110	北新居(一) B遺跡	散布地	上宮地字北新居1338他	繩文・弥生・平安・中世 ・近世	
111	上の山B遺跡	散布地	上宮地字上の山	奈良・平安	
112	無名墳	古 墓	上宮地字御崎2281-1他	古墳	旧番号9-15
113	御崎古墳	古 墓	上宮地字御崎2238他	古墳(前)	旧番号9-14
114	御崎神社横遺跡	散布地	上宮地字御崎2235-1他	繩文(中)・中世	
115	無名墳	古 墓	上宮地字伝嗣院原1408-79他	古墳(前)	
116	田頭A遺跡	散布地	上宮地字田頭1504他	繩文・平安・中世	
117	田頭B遺跡	散布地	上宮地字田頭1672他	繩文・平安	
118	伝嗣院原A遺跡	散布地	上宮地字伝嗣院原1424-1他	古墳・平安・中世	旧番号9-17
119	伝嗣院原B遺跡	散布地	上宮地字伝嗣院原1478-2他	繩文・平安・中世・近世	
120	留坪遺跡	散布地	上宮地字留坪91他	繩文・平安・中世・近世	
121	打起遺跡	散布地	上宮地字打起415他	中世・近世	
122	提尻遺跡	散布地	上宮地字提尻489他	近世	
123	曾根遺跡	集落他	上宮地字曾根1001他	繩文(中)・弥生・古墳	旧番号9-16 ・部調査
124	一の出し塚	小笠原字一の出し	591他	近世	
125	一の出し遺跡	散布地	小笠原字一の出し666-1他	平安・中世	
126	柿平A遺跡	散布地	小笠原字柿平928他	弥生・古墳・平安・中世 ・近世	1989試掘調査
127	柿平B遺跡	散布地	小笠原字柿平889-2他	弥生・古墳・平安・中世 ・近世	1989試掘調査
128	柿平C遺跡	散布地	小笠原字柿平801他	平安	
129	柿平D遺跡	散布地	小笠原字柿平905他	平安・中世・近世	
130	柿平E遺跡	散布地	小笠原字柿平859-1他	平安・中世・近世	
131	御所庭西A遺跡	散布地	小笠原字御所庭西743他	中世	
132	御所庭西B遺跡	散布地	小笠原字御所庭西765他	平安・中世	
133	御所庭西C遺跡	散布地	小笠原字御所庭西780他	平安・中世	
134	(伝) 小笠原氏館	跡 館	小笠原字流間524-1他	平安(末)・中世	町指定No.27
135	若宮遺跡	散布地	山寺字若宮103-2他	平安	
136	野田遺跡	散布地	山寺字野田244他	平安	
137	水上遺跡	散布地	小笠原字水上395-1他	平安	
138	東村遺跡	散布地	小笠原字東村143他	平安・中世	

番号	遺跡名	種別	所 在 地	時 代 (時期)	備 考
139	東出口遺跡	散布地	小笠原字東出口117-3他	縄文・平安・近世	
140	下宮地遺跡	包含地	下宮地字滝沢通り734他	古墳(中)・平安(初)	旧番号9-42 1985調査
141	山寺西畠遺跡	散布地	山寺字西畠409-1他	平安・中世	
142	八幡廻遺跡	散布地	小笠原字八幡廻494-1他	平安	
143	宝伝遺跡	散布地	山寺字宝伝458他	平安・中世	
144	下南田A遺跡	散布地	山寺字下南田955他	平安・中世	
145	下南田B遺跡	散布地	山寺字下南田1029他	弥生(後)・平安	
146	下南田C遺跡	散布地	山寺字下南田976-1他	近世	
147	下星敷遺跡	散布地	山寺字下星敷1107-1他	平安	
148	無名墳	古 墳	下市之瀬字下星敷1104他	古墳	旧番号9-35 消滅?
149	上河原A遺跡	散布地	山寺字上河原1131他	近世	
150	上河原B遺跡	散布地	山寺字上河原1182他	近世	
151	上河原C遺跡	散布地	山寺字上河原1176-1他	縄文・中世・近世	
152	富士塚古墳	古 墳	山寺字上河原1160他	古墳(後)	旧番号9-34 消滅
153	東向遺跡	散布地	平岡字東向2627-1他	縄文・弥生	
154	柿平F遺跡	散布地	小笠原字柿平852-8他	近世	
155	善德院横遺跡	散布地	山寺字寺前487-3他	古墳・平安	1989試掘調査
156	辻遺跡	散布地	山寺字辻398他	縄文・弥生・古墳・平安	
157	坂下遺跡	散布地	山寺字坂下662他	縄文・古墳・平安	
158	宝珠寺西遺跡	散布地	山寺字下南田932他	縄文・弥生・古墳・平安 ・中世	
159	コウモリ塚古墳	古 墳	山寺字下南田931他	古墳	
160	城壁	城 壁	平岡字深沢	中世	
161	平岡農村公園遺跡	城館?	平岡字御手作1456他	平安・中世	
162	小清水遺跡	散布地	上市之瀬字小清水95他	古墳・中世・近世	
163	御手作遺跡	散布地	平岡字御手作1380他	縄文・弥生・山墳・平安 ・中世・近世	
164	中畑遺跡	散布地	平岡字中畑1304他	縄文(中・後)・弥生・古墳 ・奈良・平安・中世・近世	
165	前田遺跡	散布地	平岡字前田341-1他	縄文(中)・弥生・近世	
166	久保田遺跡	散布地	平岡字久保田385他	縄文・古墳・中世	
167	東原A遺跡	散布地	平岡字東原1716他	縄文(中)・弥生・古墳・ 奈良・平安・中世・近世	
168	長田口遺跡	集落他	平岡字長田口1734-1他	旧石器・縄文(中・後)・弥 生(後)・古墳(初)・中世・近世	旧石器・縄文(中・後)・弥 生(後)・古墳(初)・中世・近世 旧番号9-17 1988・89調査
169	長田A遺跡	散布地	平岡字長田1806-1他	旧石器・縄文・弥生・奈 良・平安・中世	
170	新居田A遺跡	散布地	平岡字新居田1784-2他	縄文・弥生・平安・中世 ・近世	
171	東原B遺跡	散布地	平岡字東原2660他	縄文・弥生・平安・中世 ・近世	旧番号9-19
172	長田B遺跡	散布地	平岡字長田1822他	古墳・奈良・平安・近世	
173	六科丘古墳	古 墳	平岡字六科山1931-3他	古墳(前)	町指定No.22 1983調査

番号	遺跡名	種別	所 在 地	時 代(時 期)	備 考
174	六科丘遺跡	集落他	平岡字六科山1965他	山石器・繩文(後)・弥生(末)・古墳	1983調査
175	新居田B遺跡	散布地	平岡字新居田1110-2他	繩文・平安	
176	右原IH遺跡	散布地	上市之瀬字右原田722-18他	繩文	旧番号9--22
177	清水A遺跡	散布地	上市之瀬字清水132-1他	繩文(中後)・弥生・中世	
178	清水B遺跡	散布地	上市之瀬字清水15他	繩文(後)・弥生	
179	清水C遺跡	散布地	上市之瀬字清水65他	弥生・平安	
180	下市之瀬大烟A遺跡	祭 社	下市之瀬字大烟882他	弥生・古墳・平安	1989-部調查
181	下市之瀬大烟B遺跡	散布地	下市之瀬字大烟165他	繩文	旧番号9--31
182	下市之瀬大烟C遺跡	散布地	下市之瀬字大烟105他	弥生・中世	
183	下市之瀬大烟D遺跡	散布地	下市之瀬字大烟110他	繩文・中世	
184	横道A遺跡	散布地	下市之瀬字横道3-1他	繩文・弥生・中世	
185	横道B遺跡	散布地	下市之瀬字横道84他	繩文・弥生	
186	横道C遺跡	散布地	下市之瀬字横道12-1他	中世	
187	横道D遺跡	散布地	下市之瀬字横道97他	繩文・弥生	
188	内久根遺跡	散布地	下市之瀬字内久根922他	弥生	
189	狐塚A遺跡	散布地	下市之瀬字狐塚1398-1他	繩文(中)・中世	
190	狐塚B遺跡	散布地	下市之瀬字狐塚1386-1他	繩文・平安・中世	
191	狐塚C遺跡	散布地	下市之瀬字狐塚1334-1他	平安	
192	狐塚古墳	古 墳	下市之瀬字切付1430-10他	古墳(後)	旧番号9--32
193	久保遺跡	散布地	下市之瀬字久保1488他	中世	
194	無名塚	古 墳	下市之瀬字横道下1084-1他	古墳(後)	旧番号9--30 消滅か?
195	無名塚	古 墳	下市之瀬字横道下1083-1他	古墳(後)	旧番号9--28 消滅か?
196	横道下A遺跡	散布地	下市之瀬字横道下1078他	平安	
197	横道下B遺跡	散布地	下市之瀬字横道下1046他	平安	
198	川上道下遺跡	散布地	下市之瀬字川上道下1182他	繩文(中)・平安・中世	
199	鎧物師屋遺跡	散布地	下市之瀬字川上道下1192他	繩文	
200	鎧物師屋古墳	古 墳	下市之瀬字横道下1078他	古墳(後)	消滅
201	川上道上遺跡	散布地	下市之瀬字川上道上	繩文・平安	
202	切付遺跡	散布地	下市之瀬字切付1439-3他	平安・中世	
203	木遺跡	集落他	下市之瀬字木1224他	繩文(中)・奈良・平安	1986調査
204	山道添A遺跡	散布地	中野字山道添901他	中世・近世	
205	山道添B遺跡	散布地	中野字山道添50他	平安・中世	
206	山道添C遺跡	散布地	中野字山道添46他	繩文・中世・近世	
207	山道添D遺跡	散布地	中野字山道添38他	中世・近世	
208	西細A遺跡	散布地	上野字西細109-1他	中世・近世	

番号	遺跡名	種別	所 在 地	時 代 (時 期)	備 考
209	西畠B遺跡	散布地	上野字西畠119-1他	平安・中世・近世	
210	西畠C遺跡	散布地	上野字西畠139他	中世	
211	西湖D遺跡	散布地	上野字西湖153他	縄文・平安・中世	
212	西湖E遺跡	散布地	上野字西湖157他	縄文・平安・中世	
213	西湖F遺跡	散布地	上野字西湖151-2他	縄文・中世・近世	
214	桑木原A遺跡	散布地	中野字桑木原1225-1他	縄文・平安・中世	
215	桑木原B遺跡	散布地	中野字桑木原1241他	平安・中世	
216	桑木原C遺跡	散布地	中野字桑木原1252他	平安・中世	
217	桑木原D遺跡	散布地	中野字桑木原1352他	平安・中世	
218	上野大畠A遺跡	散布地	上野字大畠165他	古墳・中世	
219	上野大畠B遺跡	散布地	上野字大畠1290他	弥生・中世	
220	東田遺跡	散布地	中野字東田1767他	平安・中世	
221	上野山遺跡	集落地	上野字上野山2690他	縄文(中)・弥生(後)	旧番号9-24 郭調査
222	椿崎跡	城館跡	上野字上野山263-1他	中世	旧番号9-23
223	かに原遺跡	散布地	上野字かに原1985-1他	縄文(中)・弥生・平安 ・中世・近世	
224	東久保遺跡	散布地	上野字東久保2021-3他	平安	
225	向山遺跡	散布地	上野字向山693他	中世	
226	物見塚古墳	古 墓	下山之瀬字上の山954-1他	古墳(前)	旧番号9-26
227	上杉本A遺跡	散布地	中野字上杉本191他	縄文・弥生・平安	
228	上杉本B遺跡	散布地	中野字上杉本254他	縄文・中世	
229	下杉本A遺跡	散布地	中野字下杉本429他	縄文(中~後)・弥生・平安 ・中世・近世	
230	下杉本B遺跡	散布地	中野字下杉本474他	平安	
231	下杉本C遺跡	散布地	中野字下杉本538他	奈良~平安・近世	
232	山道添D遺跡	散布地	中野字山道添7他	平安・中世	
233	中河原遺跡	散布地	中野字中河原3052-25他	平安	
234	古屋敷遺跡	散布地	中野字古屋敷1879他	縄文(中)・弥生(後) ・古墳・平安	旧番号9-25
235	伊奈ヶ湖遺跡	散布地	伊奈ヶ湖北~東岸	縄文(前~中)・弥生	旧番号9-10
236	高尾丸山遺跡	散布地	高尾字丸山	縄文(前~中)	旧番号9-9
237	中野城	城 跡	中野字城山	中世	
238	南伊奈ヶ湖遺跡	散布地	南伊奈ヶ湖周囲	旧石器・縄文	現在湖底か
239	雨鳴城	城 跡	中野字城山	中世	



第2図 楠形町道路分布図

第5章 町内の山城

中野城

中野の集落の西にそびえる城山の頂上一帯に占地する。山頂部は、南北にのびる細長い尾根状を呈し、その東側はいたるところで大きく崩壊している。遺構は最高点である南端の三角点（標高1023.3m）付近と北端の展望小屋付近にみられる。三角点付近では、高さ50cmほどの土塁が東西にのび、山道と交わるところで入口部（虎口）を形成し、その土塁の北側は帯状の削平地となっている。展望小屋が建つところは、30m×40mほどの平地であり、その北側は約幅4mの帯郭が設けられている。

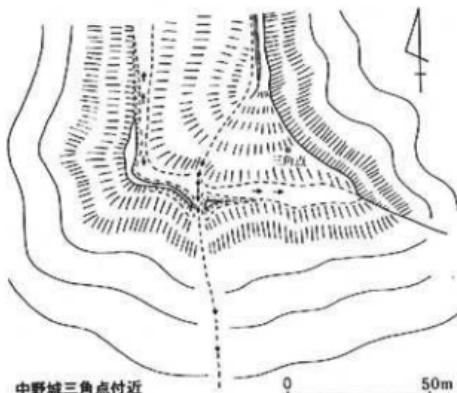
これ以外にも隨所に平地はみられるが、明らかに人為的に削平されたものと判定できるものは少ない。また崩落した東側に遺構が残かれていたことも考えられる。

『甲斐国志』には、「新羅五郎種久ナル者ノ所築也乃秋山太郎光明朝要害ノ城墟ナリ」とあり新羅五郎種久について不明あるが、加賀美達光の長男、秋山光朝の要害としている。

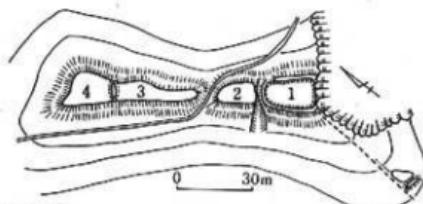
雨鳴城

城山の南東で、篠形町と甲西町にまたがる屋根上に位置する。

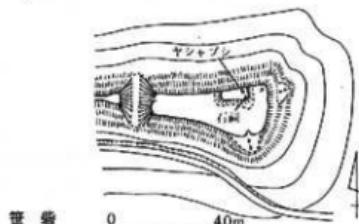
遺構は大きくは直線上に並ぶ4つの郭により構成されておりそのまん中を山道が通る。南東端の郭から1～4とすると1が主郭（約25×15m）で周囲に高さ50cmから1mの土塁が施され、北端に入口部をもつ。1～2の郭の間には浅い堀があり、西斜



中野城三角点付近



雨鳴城



第3図 町内山城略測図

面の堅堀へとつづく。3と4の郭の間にも高さ約40cmの上塁がみれる。

この城を甲斐源氏の一流、秋山光朝の城とする伝承もあるが、現在の造構そのものは、戦国期の所産とみられる。

筆者

平岡の集落の西、諏訪神社の背後で、町指定天然記念物「平岡のヤシャブシ」が位置するところにあたる。造構は主として、1つの郭と1つの堀切のみで、単純な形態である。郭は東西約40m、南北約18mから8mで、ヤシャブシや石祠がたつ北側に高まりをもつ。郭の西側の堀切は上幅12m、深さ2mほどの規模である。『甲斐国志』によると、「里人ハニッ角判官ナ者ノ居址ナル由云伝レドモ其人未ダ審ナラズ」とされる。

第6章 まとめ

今回の詳細分布調査の結果、239ヶ所にのぼる遺跡を発見、確認し多くの成果を得ることができた。これまで50ヶ所の遺跡が確認されたのみであったことに比べると、約5倍にのぼったことになる。その内訳は、縄文時代69、弥生時代46、古墳時代37、奈良・平安時代118、中世140、近世64であった。全体的な分布状態からは、縄文時代・弥生時代の遺跡は台地上を主体とし、古墳時代以降には台地下に移行するが、中・近世以降、全町的にその分布域を拡散させていることが窺える。また町内での最古の遺跡が約2万年前まで遡ること、これまであまり知られなかった扇状地上での遺跡の発見など多くの知見を得ることができた。

今回は分布調査であり、水田・裸地・林野等には調査が及ばなかった。また扇状地では後世土砂が厚く堆積しており、今回の調査で確認された以外にも遺跡が存在する可能性が強い。更に山城の確定、伝承・遺称などにのこる館跡・寺院跡などの確認・特定や扇状地上における遺跡の選地と微地形との関係などいくつかの課題を残すこととなった。今後の調査に期待する所以である。

ともあれ、今回の調査が櫛形町、さらには山梨県における考古学的調査・研究の基礎的資料となり、更に埋蔵文化財の保護、開発行為との調整などに役立ちうれば幸いである。

最後に、今回の調査にあたりご迷惑をおかけした皆様、ご指導・ご協力頂いた関係諸氏に心から感謝いたします。

《引用・参考文献》

- 1) 津 祥 「甲府盆地西端・南縁の活断層」 54-9、473-492 地理学評論 1981
農村誌編纂委員会 「農村誌」 1960
櫛形町誌編纂委員会 「櫛形町誌」 1966
中込松弥 「西都史誌」 西都史誌刊行会 1967
佐藤八郎・佐藤森三校注 45 「甲斐国志」 大日本地誌大系 1970
川内町誌編纂委員会 「甲西町誌」 1973
磯貝正義他 「日本城郭大系 8 長野・山梨」 1980
文化庁 「全国遺跡地図 19 山梨県」 1981
山梨県教育委員会 「山梨県の中世城跡」 1986



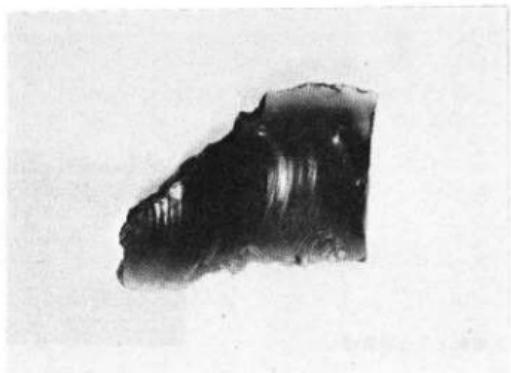
古屋敷・十五所遺跡



平岡遺跡群



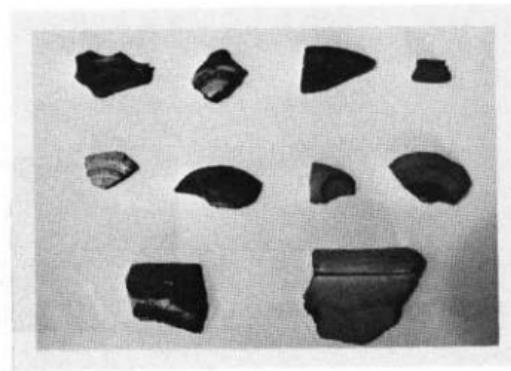
かに原・東久保・古屋敷遺跡



ナイフ型石器



縄文・弥生式土器



中・近世土器

町内遺跡詳細分布調査報告書

平成2年3月31日 発行

発行 櫛形町教育委員会

山梨県中巨摩郡櫛形町小笠原397-1

TEL 0552-82-0108

印刷 野中印刷

山梨県中巨摩郡櫛形町小笠原

